海蔵社協通算　第60号
平成26年3月

地区広報 かいぞう

かいぞう文庫40周年「こんな本読んだよ」コンクール受賞作品

海蔵の子どもたち、大人たち

「あずきとげたかみてみましょ、おこめとげたかみてみましょ」かいぞう文庫で「読み聞かせ」が始まった。今日は紙芝居。「あずきとぎ」の話が始まると子どもたちの耳には文庫のまわりのざわめきが聞こえなくなり、視界からは図書館の壁を埋める書棚が消えた。

突然天井から落ちてくる、おひついっぱいのおはぎに、紙芝居の前の十一人の子どもたちの目と耳と心は奪われた。そのおはぎの話を聞きつけて、同じごちそうを期待する村人の前に、なすびの漬物がいっぱい詰まったおひつが落ちてきて、それでこの「あずきとぎ」の話が突然終わってしまう結末を、聞き手も話し手も、さらりと受け入れる不思議な時間がここにはある。

かいぞう文庫のスタッフが毎月第二火曜日に行っている「読み聞かせ」は、デジタルの時代を生きる子どもと大人を魅了してやまない。

限りない好奇心と、無限の生命力を持つ子どもですが、一方、無防備で、残酷で、危ういのも子どもです。大人は、こんな子どもたちを、放っておけず、喜び輝いてほしいと思う。

地区では発足四十周年を迎えた「かいぞう文庫」、子どもたちの自主運営で進められる「こどもまつり」、小学校ＰＴＡ等が行う「通学路安全点検」、社会福祉協議会が行う「保育園児・幼稚園児と高齢者の交流会」「中学校生徒を交えての福祉体験教室」、そして「学童保育」などいろいろな「子育て支援」があります。

そんなこんな、たくさんの人がたくさんの時間を費やしてさまざまの活動を行っていますが、実は、これら地域の人々が子どもたちの日常に関わり、気を配り、遠くから見守るそのなかで、大人たちも新しく気づかされ、励まされ、輝かされているのではないでしょうか。

海蔵地区人口　総数13,648人　男6,773人　女6,875人　世帯数5,587戸（平成26年3月1日現在）
編集・発行／海蔵地区社会福祉協議会・広報部　　印刷／阿竹印刷工業㈱

祝40周年!! かいぞう文庫

かいぞう文庫の利用方法 知ってますか？

利用時間：８時30分～17時
（祝日、12月28日～1月3日は除く）

利用日：月曜日～金曜日（祝日、12月28日～1月3日を除く）

※火曜日・金曜日は午後2時以降に当番配置

※第二火曜日午後3時から「読み聞かせ」を行っている

利用できるのは：どなたでも大歓迎！

貸出：一人３冊まで。貸出期間は２週間。

利用方法:貸出カードに氏名･貸出日を記入して、カード入れに入れる。カードのない本は貸出記入帳に記載する。返す本は返却棚に置く。　※本の種類はラベルの色で分れていて、本の総数はラベル無も含めると7,607冊（H25.10現在）

青／物語	緑／歴史	赤･ピンク／絵本
2,231冊	1,156冊	2,888冊
茶、ラベル無／大人向		銀／学習
674冊		658冊

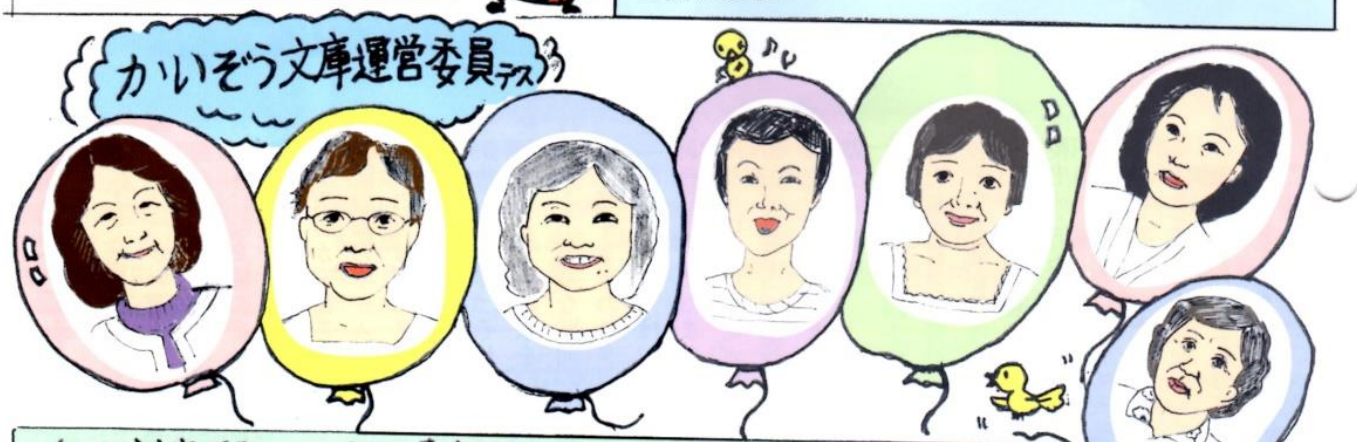
かいぞう文庫の生い立ち

＊文庫運営委員長＊
太田南海雄さんにお聞きしました…

昭和48年当時、海蔵保育園の保護者会長をしていた頃、本が大好きだった園長先生の申し出から保育園の文庫として立ち上げた。その後、もっと多くの人に本に親しんでもらうため地区市民センターに場所を移し、一旦は父（太田友三郎氏）に管理運営を任してきた。これまでボランティアの方々のお陰で40周年をむかえることが出来、感謝にたえない。この文庫は市内で最も大規模な文庫であり、本を通じて色々な行事にも力を注ぎ、地域の親子の交流、ひいては家族の交流を目指してきた。今後この文庫を子どもたちが寝そべったりして、ゆっくり本に親しめるような場所へと発展させたい。

【インタビューを終えて】

太田代表の本や子どもたちに対する愛おしい思いが心底伝わって来ました。今後の夢である「鍵っ子もホッとできるような居場所作り」に向かっての意欲を語って頂きました。同席の奥様も交えて地域の子育てやまちづくりについての熱い思いをうかがったひと時で、何だかとっても元気が出ました。



～かいぞう文庫活動～　多くの素適な思い出と、ともに～

文庫運営委員OB. Tさん

文庫のボランティア活動をさせていただいた２０年間には、思い出がいっぱい詰まっています。本を購入し整理することは勿論、地域の方々に文庫を知って頂こうと、色々な行事も計画しました。故 太田友三郎理事長からも様々なご提案を頂きました。例えば夏休みの小旅行（松阪、伊勢、名港水族館、博物館、いなば丸、御在所などなど）その他の催しとして、百人一首かるた会、豆まき、凧揚げ、七夕会、きらら号星空観察、しめ縄つくり、映画会、ジャズコンサート、演劇鑑賞など思い起こせば数えきれない思い出がいっぱいです。毎年苦労はありましたが、それ以上に子どもたちや保護者の方たちと楽しいひと時を過ごせたことが何よりの私の宝物です。地域の皆さんのご協力に感謝です。本離れが進む昨今ですが、おやごさんの心のこもった読み聞かせこそが子どもたちの一番の心の安らぎになると確信しています、かいぞう文庫が末永く続くことを祈りつつ・・・

● かいぞう文庫の現状と役割とは

かいぞう文庫は夏休みや冬休みには利用者が一段と増加します。と言っても本に親しむというより居場所を求めてくる子どもたちがそこにいます。家に誰もいない、遊ぶ友達も居ない・・。そんな子どもの心のよりどころにも一役買っているのが現状です。ただ、本当に静かに本に親しみたい子どもたちにとっては、本を読む目的以外の利用者は迷惑だったり、お行儀には問題もあるようです。でも、そうだとしても叱る人がいて子どもたちは育ちます。まして他人の子どもを真剣に叱る大人が少ない今日この頃。文庫に来る子どもたちは「海蔵の子」として受け入れられ、育まれているようです。そんな心の居場所こそかいぞう文庫なのかもしれません。「学校の図書館とどう違うの？」それは静かに本を読むだけでなく、文庫という居場所を通じていろいろな行事や旅行を体験できる、優しいほっとする居場所なのです。まして、誰かが「おかえり！」と声掛けしてくれる我が家のようなところなのですよ。

おっちゃんのひとこと物申す!!

「かいぞう文庫を遊び場と思っている子ども達、他人の迷惑と考えろよ！」
でも、そんな子ども達の居場所であることも文庫のひとつの役割かなァ
(^0^)

海小学校からひとこと

本校に読書が好きな子どもたちが多いのは、地域の中でかいぞう文庫といった環境があったからではないでしょうか。かいぞう文庫は、地域の中で、本に親しむ事が出来るだけでなく、そこが子どもたちの居場所や心のよりどころになっていることに大きな価値があると思います。40年という歴史の中で、多くの子どもたちがお世話になってきたように、今後も訪れる子どもたちを温かく見守ってくださいますようお願いします。

～かいぞう文庫と私～ 文庫今昔ものがたり～

40周年記念読書感想文『メガネをかけたら』を読んで

海蔵小2年女子

「ちょっと視力が悪くなっていますね。」と目医者さんに言われました。2年生になったばかりのことです。メガネをかけるのはいやだなぁ、ちゃんと見えているのに、今はメガネをかけなくてもいいけどいつか、メガネをかけないといけなくなったらいやだなと思いました。そんなとき、本やで、「メガネをかけたら」という本を見つけました。この本にあるみたいに、空をとぶメガネや、かわいくなるメガネがあったらわたしもかけるのに。本当にメガネをかけたら人が考えていることが分かるといいなあ、と思いました。　メガネをかけてもだれにもわらわれない、メガネの国があったらいいな。メガネの国では、みんながメガネをかけていて、目が悪くない人もメガネをかけています。わたしが、かけたいのは目が悪くならないメガネです。勉きょうがスラスラできるメガネもあります。水えいが上手になるメガネもあります。お母さんがかけているメガネは料理が早く出来るメガネです。お父さんがかけているメガネはゴルフが上手になるメガネです。弟がかけているメガネはサッカーが上手になるメガネです。

本で、メガネを買いに行くとき、女の子がいろいろなメガネをためされながら、店員さんが言っていることを全然信じていなかったのが、おもしろかったです。たぶんメガネをかけるのがすごくいやだったんだと思います。

最後に女の子がメガネをかけて学校に行ったとき、先生たちもみんなメガネをかけているのがやさしいと思いました。メガネをかけるのも悪いことばかりじゃないなあと思いました。

わたしが小学生だったころ・・・海蔵小卒業生40代女子

学校が終わると、吸い寄せられるようにかいぞう文庫へ行って、本を読んでいました。大人になった今も本が大好きなのは、かいぞう文庫があったおかげだと思います。児童書や伝記はもちろん、「サザエさん」や「火の鳥」などの漫画の本もワクワクしながら、いっぱい読んでいました。

先日、久しぶりにかいぞう文庫をのぞいてみました。ふと見ると、当時読んでいた「エルマーのぼうけん」が置いてあって、とても懐かしい気持ちになりました。今も、たくさんの子どもたちが本を楽しんでいるようですね。

かいぞう文庫には、新しい本もあります。子どもの本以外も置いてありますし、大人にとっても本好きには「穴場スポット」だと思います。